

学校基本情報

※文部科学省「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」準拠

1. 学校の概要、目標及び計画

① 学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色

【基本方針】

柔道整復師、鍼灸師を養成する専門教育機関として平成14年に創立した本校は、今後の社会情勢や業界からのニーズの変化を捉え、より臨床現場で活躍できる人材の育成を目指し、その「柱」となる教育理念と教育目標を再設定した。これにより、「学生に全力投球」をモットーに教職員一丸となって「集める学校から集まる学校」にしていく方針を掲げ、教育活動から学生支援活動に至る様々な新しい取組みに着手した。

【理念】

『他人を敬い自ら律する心と確かな臨床力により人々から信頼される医療人を育成する』
本校の経営母体である学校法人敬心学園の「敬心」には、「他人を敬い自らを律する」という意味が込められている。

この「敬」は人々を敬愛する「敬意」「敬老」「尊敬」に通じ、また「心」は人間の精神作用を総合的にとらえた言葉であり、人間の「知識」や「感情」「意思」の総体でもある。さらに「思慮」・他人への「思いやり」・自らの「志」に通じるものであり、医療分野の対人サービスを専門職とする人および志す人の基本的な心構えである。

一方、現場では、常にプロフェッショナルとしての臨床力が求められる。

臨床力とは、十分な知識・技能に裏打ちされた実践的能力はもちろん、心構えや態度、コミュニケーション力、情報収集力、判断力そして自己研鑽を積み続ける姿勢までも含むものとする。

「敬心」の心と臨床現場で必要とされるスキルを持ち合わせることで、あらゆる人々から信頼される医療人の育成に教職員一体となって取り組んでいきたい。

【教育目標】

『自ら考え行動する医療人の育成』

「自ら考え行動する医療人」とは、自ら問題を発見、課題を設定し、その解決のために方策を考え判断し実践することのできる人材である。

こうした医療人の育成には、基礎知識、専門知識や技術などの医療専門教育に加え、態度や心構え、倫理教育、コミュニケーション教育、体験学習などのすべてを包含する教育が必要である。

この教育目標に向け、教員は「教える教育から、学生が自ら学ぶ学習支援へ」を心がけ、学生には「目的意識を持ち、自発的に学ぶこと」を促し、教育を通じて教職員・学生が共に学び合う姿勢と心を大切にしたいと考える。さらに、学生の志を育みモチベーションを高めることを支援し、かつ社会のニーズをいち早く捉える先駆的な試みにもチャレンジしていきたい。



スポーツから健康まで。
あらゆるニーズに対応し、
現場で活躍する
柔道整復師をめざします。

スポーツ柔整×現代柔整×伝統柔整
柔道整復学科
「職業実践専門課程」文部科学大臣認定

☀️ 昼間部 3年制 60名 9:00~12:10
※週1回のみ9:00~16:10まで授業があります。

🌙 夜間部 3年制 60名 18:20~21:30

“3つの専門分野”を学ぶことで、

実践で役立つ、幅広い理論と実技を網羅。

スポーツの現場で必要とされる「スポーツ柔整」、
多様化する患者さまのニーズに対応する「現代柔整」
伝統的な接骨・骨つぎを学ぶ「伝統柔整」。
これら3つの専門分野を3年間で網羅します。

スポーツ現場で
活躍する
スポーツ柔整

多様化する患者さまの
ニーズに対応する
現代柔整

伝統的な接骨
骨つぎを学ぶ
伝統柔整

スポーツ現場で活躍する スポーツ柔整

海外研修

オフィシャルメディカルサポーター

柔道整復師がスポーツ現場で必要とされる基礎を学びます。フィジカルとメディカル、両方の視点からスポーツトレーナーになるための技術を学びます。



多様な施術アプローチを学ぶ 現代柔整

カイロプラティック

メディカルタイ式マッサージ

多様化するニーズに対応するために、子どもからお年寄り、プロからアマチュアに向けた、さまざまな施術アプローチを学ぶ。柔道整復師の技術知識と併せ持つことで、あらゆる現場のニーズに合った手技を発揮ができます。



実践的な骨つぎ・接骨技術 伝統柔整

柔道整復学

柔道整復実技

長い歴史の中で培われてきた、柔道整復師の技術を症状や部位に合わせて学びます。柔道整復師ならではの実践的な骨つぎ・接骨技術を身につけ、地域医療に広く貢献する知識や技術を身につけます。



日本鍼灸・中国鍼灸の融合

鍼灸学科

歴史ある中国鍼灸との融合
美容・スポーツ・婦人・高齢者と幅広く習得する

☀️ 昼間部 3年制 60名 9:00～12:10

🌙 夜間部 3年制 60名 18:20～21:30

東京都では**5校のみ**

※東京都内における職業実践専門課程認可の
柔道整復学科・鍼灸学科設置校

日本で初めて文部科学大臣が認定した**職業専門課程**



POINT

1

ダブル
Wスタディ「日本鍼灸」と「中国鍼灸」が学べる

身体に
やさしい
「日本鍼灸」
を学ぶ

はり実技

基礎を学び、反復することで身体に技術や施術の流れを覚え込ませます。1年次のはり実技は、在学中だけではなく臨床家としての土台を作ります。



きゅう実技

「日本鍼灸」の特徴とも言えるお灸。様々なお灸を使いこなせるようになることで、臨床現場への第一歩を踏み出すことにつながります。



技術の
更なる向上
「中国鍼灸」
を学ぶ

臨床中医

中国研修の前段階として、中国での現場経験のある本校教員から中医学の基本を学びます。中国研修に必要な知識を事前に習得し、より充実した研修の下地を作ります。



Check!

本場を学ぶ「中国上海研修」 「特任講師によるセミナー」

中国トップクラスの国立大学である「上海中医薬大学」と提携し、上海研修旅行や講師を招いて本校でのセミナーを通じて、本物の中国鍼灸を学べます。



中国鍼灸を身に着ける

上海研修・
特任セミナー

POINT

2

臨床力をつけるための「教員1名:学生2名」教育システム

日本医専では、鍼灸に関する知識はもとより、**実践で役立つための臨床力の向上に最も力を入れています。**

そのため、学生にとって実となるよう臨床実習は教員1名につき、学生2名での体制をとっています。(他校は教員1名に対して3名以上の場合が多い)

そのため、臨床実習においても、教員とのコミュニケーションを図ることができ、身になる実習環境を用意しています。



POINT

3

美容鍼灸への取り組み

日本医学柔整鍼灸専門学校美容鍼灸の授業は1年生で鍼灸の基礎技術を身につけ、2年生から美容鍼灸の基礎実技をスタートします。3年生では臨床を想定した美容鍼灸の応用編の授業を行います。

特に顔面部の刺鍼には内出血のリスクが存在します。出血しやすい部位の確認、痛みの少ない鍼の刺し方、効果を得やすい鍼を刺す深さや方向など、経験豊かな教員が基本からわかりやすく教授します。また放課後には美容鍼灸クラブを実施しています。希望者は、教員の指導の下でトレーニングを積むことができ、学生からも好評です。在学中から将来美容鍼灸で活躍したい学生のサポートを行っています。



② 校長名、所在地、連絡先

<校長名> 奥田久幸

<所在地> 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-18-18

<連絡先> 03-3208-7741 (代表)

③ 学校の沿革、歴史

(学校の沿革)

2002年4月1日	学校法人情報学園「日本柔整鍼灸専門学校」開校、柔道整復学科昼間部及び鍼灸学科夜間部を配置
2002年4月16日	平成14年4月1日から適用される厚生労働大臣の「養成施設指定書」が東京都生活文化局私学部長より適用される
2003年11月6日	飯田橋公共職業安定所より「無料職業紹介事業」の申請が受理される。これにより就職斡旋活動を開始。
2004年4月1日	校名を「日本柔整鍼灸専門学校」から「日本医学柔整鍼灸専門学校」に改める。柔道整復学科夜間部、及び鍼灸学科昼間部の学科設置。
2004年8月	柔道整復学科・黄海匡士教員（現特任講師）が競泳日本代表トレーナーとして、オリンピック・アテネ大会に派遣される。
2007年5月1日	新宿区高田馬場2丁目に施術所、柔道場を移転。演習室、多目的教室等を増設。「第二校舎」とする。
2008年8月	柔道整復学科・黄海匡士学科長（現特任講師）が競泳日本代表トレーナーとして、オリンピック・北京大会に派遣される。
2008年10月17日	（財）日本水泳連盟より、オリンピック・北京大会で「ニッポン水泳チームの成績向上に多大な貢献」をしたことにより本学に感謝状が贈られる。
2009年8月11日	（社）全国柔道整復学校協会第42回柔道大会「男子三部」で三位に入賞。
2012年4月1日	創立10周年を迎える。
2012年7月	柔道整復学科・黄海匡士メディカルトレーナー育成部長（現特任講師）が競泳日本代表トレーナーとして、オリンピック・ロンドン大会に派遣される。
2013年4月1日	姉妹学校法人敬心学園と法人合併する
2013年4月1日	第二校舎にキャリア支援センターを開設。

④ その他の諸活動に関する計画

【学校安全】

- ・教職員により構成する防災委員会を設置し、防災マニュアルを作成。防災用備品の備蓄を行い各教室へ避難場所を掲示している。
- ・ハラスメント委員会「相談員」を任命し、リーフレットを配布している。

【保健対策】

- ・毎年4月に健康診断を実施
- ・毎年11月にインフルエンザ予防接種を実施（任意）

2. 各学科（コース）等の教育

① 収容定員数・入学者数・在学学生数

		定員数	入学者数	在学学生数		
				1年	2年	3年
柔道整復 学科	昼間部	60	48	49	44	46
	夜間部	60	26	26	27	32
鍼灸学科	昼間部	60	61	62	42	33
	夜間部	60	36	36	28	45
合計		240	171	173	141	156

② カリキュラム・授業方法及び内容・年間の授業計画

→次頁に記載

別表
柔道整復学科 学年別授業内容及び単位数

教育内容	必/選	科目名	方法	1学年	2学年	3学年	計				
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 (14)	必修	医療の基礎知識	講	4	68		4	68			
	必修	トレーナー基礎理論	講	2	34		2	34			
	必修	柔道入門	実	2	68		2	68			
	必修	人体のしくみ	講			2	34	2	34		
	必修	グローバル人材育成1	講			2	34	2	34		
	必修	グローバル人材育成2	講			2	34	2	34		
基礎分野小計				8	170	4	68	2	34	14	272
専門基礎分野 人体の構造と機能 (13) 疾病と障害 (12) 健康医療福祉と 柔道整復の理論(7)	必修	解剖学1	講	4	68		4	68			
	必修	解剖学2	講	4	68		4	68			
	必修	生理学	講	4	68		4	68			
	必修	運動学1	講	2	34		2	34			
	必修	運動学2	講			2	34	2	34		
	必修	衛生学・公衆衛生学	講			2	34	2	34		
	必修	一般臨床医学1	講			2	34	2	34		
	必修	一般臨床医学2	講			2	34	2	34		
	必修	病理学概論1	講	2	34		2	34			
	必修	病理学概論2	講			2	34	2	34		
	必修	外科学概論1	講			2	34	2	34		
	必修	外科学概論2	講			2	34	2	34		
	必修	整形外科学1	講			2	34	2	34		
	必修	整形外科学2	講			2	34	2	34		
	必修	リハビリテーション医学1	講			2	34	2	34		
	必修	リハビリテーション医学2	講			2	34	2	34		
	必修	柔道1	実			1	34	1	34		
	必修	柔道2	実			2	68	2	68		
	必修	医学教養	講			2	34	2	34		
	必修	関係法規	講			2	34	2	34		
専門基礎分野小計				16	272	15	272	14	272	45	816
専門分野 柔道整復学(9) 臨床柔道整復学(14) 柔道整復実技(16) (臨床実習を含む)	必修	基礎柔道整復学1	講	2	34		2	34			
	必修	基礎柔道整復学2	講	2	34		2	34			
	必修	基礎柔道整復学3	講	2	34		2	34			
	必修	基礎柔道整復学4	講	2	34		2	34			
	必修	基礎柔道整復学5	講	2	34		2	34			
	必修	柔道整復学1	講			2	34	2	34		
	必修	柔道整復学2	講			2	34	2	34		
	必修	柔道整復学3	講			2	34	2	34		
	必修	柔道整復学4	講			2	34	2	34		
	必修	柔道整復学5	講			2	34	2	34		
	必修	柔道整復学6	講			2	34	2	34		
	必修	柔道整復学7	講	2	34		2	34			
	必修	柔道整復実技1	実	1	34		1	34			
	必修	柔道整復実技2	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技3	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技4	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技5	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技6	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技7	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技8	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技9	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技10	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技11	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技12	実			1	34	1	34		
	必修	柔道整復実技13	実			1	34	1	34		
必修	柔道整復実技14	実			1	34	1	34			
必修	柔道整復実技15	実			1	34	1	34			
必修	臨床実習	実			1	45	1	45			
専門分野小計				13	238	16	351	11	374	40	963
合計				37	680	35	691	27	680	99	2051
応用分野	必修	応用講座1	講義	2	34	2	34	2	34	6	102
	必修	応用講座2	講義	2	34	2	34	2	34	6	102
	必修	応用講座3	講義	2	34	2	34	2	34	6	102
	必修	応用講座4	講義	2	34	2	34	2	34	6	102
応用分野小計				8	136	8	136	8	136	24	408
総合計				45	816	43	827	35	816	123	2459

別表
鍼灸学科 学年別授業内容及び単位数

教育内容	必/選	科目名	方法	1学年		2学年		3学年		計	
				単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 (14)	必修	基礎講座1	講	2	40					2	40
	必修	基礎講座2	講	4	80					4	80
	必修	基礎講座3	講	2	40					2	40
	必修	基礎講座4	講					2	40	2	40
	必修	基礎講座5	講	2	40					2	40
	必修	基礎講座6	講	2	40					2	40
基礎分野小計				12	240	0	0	2	40	14	280
専門基礎分野 人体の構造と機能 (13) 疾病の成り立ちと 予防及び回復の促進 (12) 健康医療福祉とはり及びきゅうの理念(2)	必修	解剖学1	講	3	60					3	60
	必修	解剖学2	講	1	20					1	20
	必修	解剖学3	講			4	80			4	80
	必修	生理学1	講	4	80					4	80
	必修	生理学2	講			4	80			4	80
	必修	病理学概論	講					4	80	4	80
	必修	臨床医学総論1	講			2	40			2	40
	必修	臨床医学総論2	講					2	40	2	40
	必修	臨床医学各論1	講			4	80			4	80
	必修	臨床医学各論2	講			4	80			4	80
	必修	リハビリテーション医学	講			4	80			4	80
専門基礎分野小計				8	160	22	440	8	160	38	760
専門分野 基礎はり学 基礎きゅう学 (7) 臨床はり学 臨床きゅう学 (10) 社会はり学・社会きゅう学(2) 実習 (臨床実習を含む) (16) 総合領域(10)	必修	鍼灸理論	講	4	80					4	60
	必修	東洋医学概論1	講	4	80					4	80
	必修	東洋医学概論2	講			2	40			2	40
	必修	経絡経穴概論	講	4	80					4	80
	必修	東洋医学臨床論1	講			4	80			4	80
	必修	東洋医学臨床論2	講					2	40	2	40
	必修	中医学	講			2	40			2	40
	必修	スポーツ理論	講					2	40	2	40
	必修	地域医療と鍼灸	講					2	40	2	40
	必修	はり基礎実技	実	2	80					2	80
	必修	きゅう基礎実技	実	2	80					2	80
	必修	経絡経穴実技	実			1	40			1	40
	必修	美容鍼灸実技	実			1	40			1	40
	必修	現代鍼灸実技	実			1	40			1	40
	必修	経絡鍼灸実技	実			1	40	1	40	2	80
	必修	中医学鍼灸実技	実					1	40	1	40
	必修	スポーツ鍼灸実技	実					1	40	1	40
	必修	高齢者鍼灸実技	実					1	40	1	40
	必修	レディース鍼灸実技	実					1	40	1	40
	必修	総合臨床	実					1	40	1	40
	必修	臨床実習	実					2	90	2	90
	必修	総合講座1	講			2	40			2	40
	必修	総合講座2	講					2	40	2	40
必修	総合講座3	講					4	80	4	80	
必修	総合講座4	講					2	40	2	40	
専門分野小計				16	400	14	360	22	610	52	1370
合計				36	800	36	800	32	810	104	2410

柔道整復学科昼間部 2・3年

別表
 学則:柔道整復学科昼間部 学年別授業内容及び単位数

教育内容	必/選	科目名	方法	1学年		2学年		3学年		計	
				単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 (14)	必修	基礎講座Ⅰ(基礎医学)	講	2	30					2	30
	必修	基礎講座Ⅱ(栄養学)	講	2	30					2	30
	必修	基礎講座Ⅲ(物理学)	講	2	30					2	30
	必修	基礎講座Ⅳ(スポーツ柔整)	講	4	60					4	60
	必修	基礎講座Ⅴ(介護福祉)	講	4	60					4	60
	必修	基礎講座Ⅵ(柔道入門)	講	4	60					4	60
基礎分野小計				18	270	0	0	0	0	18	270
専門基礎分野 人体の構造と機能 (13) 疾病と障害 (12) 健康医療福祉と 柔道整復の理念 (7)	必修	解剖学Ⅰ	講	4	60					4	60
	必修	解剖学Ⅱ	講			4	60			4	60
	必修	生理学Ⅰ	講	4	60					4	60
	必修	生理学Ⅱ	講			4	60			4	60
	必修	運動学Ⅰ	講			2	30			2	30
	必修	運動学Ⅱ	講					2	30	2	30
	必修	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	講			2	30			2	30
	必修	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	講					2	30	2	30
	必修	病理学概論Ⅰ	講			2	30			2	30
	必修	病理学概論Ⅱ	講					2	30	2	30
	必修	一般臨床医学	講			4	60			4	60
	必修	外科学概論Ⅰ	講			2	30			2	30
	必修	外科学概論Ⅱ	講					2	30	2	30
	必修	整形外科学	講			4	60			4	60
	必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講			2	30			2	30
	必修	リハビリテーション医学Ⅱ	講					2	30	2	30
	必修	関係法規	講	4	60					4	60
	必修	柔道Ⅰ	実			2	60			2	60
	必修	柔道Ⅱ	実					2	60	2	60
専門基礎分野小計				12	180	28	450	12	210	52	840
専門分野 柔道整復学(9) 臨床柔道整復学(14) 柔道整復実技(16) (臨床実習を含む)	必修	柔道整復学 総論	講	2	30					2	30
	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講	2	30					2	30
	必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講	2	30					2	30
	必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講	2	30					2	30
	必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講	2	30					2	30
	必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講	2	30					2	30
	必修	柔道整復学Ⅰ	講			2	30			2	30
	必修	柔道整復学Ⅱ	講			2	30			2	30
	必修	柔道整復学Ⅲ	講			2	30			2	30
	必修	柔道整復学Ⅳ	講			2	30			2	30
	必修	柔道整復学Ⅴ	講					2	30	2	30
	必修	柔道整復学Ⅵ	講					2	30	2	30
	必修	柔道整復学Ⅶ	講					2	30	2	30
	必修	柔道整復学Ⅷ	講					2	30	2	30
	必修	柔道整復実技Ⅰ	実	2	60					2	60
	必修	柔道整復実技Ⅱ	実			2	60			2	60
	必修	柔道整復実技Ⅲ	実			2	60			2	60
	必修	柔道整復実技Ⅳ	実			2	60			2	60
	必修	柔道整復実技Ⅴ	実					2	60	2	60
	必修	柔道整復実技Ⅵ	実					2	60	2	60
	必修	柔道整復実技Ⅶ	実					2	60	2	60
	必修	柔道整復実技Ⅷ	実					2	60	2	60
	必修	臨床実習	実			1	45			1	45
専門分野小計				14	240	15	345	16	360	45	945
合計				44	690	43	795	28	570	115	2055
応用分野	必修	応用解剖学Ⅰ(カラダ・デザインⅠ)	講	4	60					4	60
	必修	応用解剖学Ⅱ(カラダ・デザインⅡ)	講	2	30					2	30
	必修	柔整介護	講	2	30					2	30
	必修	応用講座Ⅰ(基礎柔道整復学)	講	2	30					2	30
	必修	応用講座Ⅱ(柔道整復学)	講			2	30			2	30
	必修	応用講座Ⅲ(国対・解剖学)	講					4	60	4	60
	必修	応用講座Ⅳ(国対・生理学)	講					4	60	4	60
	必修	応用講座Ⅴ(国対・一般臨床医学)	講					2	30	2	30
	必修	応用講座Ⅵ(国対・整形外科学)	講					2	30	2	30
	必修	応用講座Ⅶ(柔道整復学)	講					2	30	2	30
必修	応用講座Ⅷ(柔道整復学)	講					2	30	2	30	
必修	応用講座Ⅸ(柔道整復学)	講					2	30	2	30	
応用分野小計				10	150	2	30	18	270	30	450
総合計				54	840	45	825	46	840	145	2505

柔道整復学科夜間部 2・3年

別表

柔道整復学科夜間部 学年別授業内容及び単位数

教育内容	必/選	科目名	方法	1学年		2学年		3学年		計		
				単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	
基礎分野 (14)	必修	基礎講座Ⅰ(基礎医学)	講	2	30					2	30	
	必修	基礎講座Ⅱ(スポーツ科学)	講	2	30					2	30	
	必修	基礎講座Ⅲ(栄養学)	講	2	30					2	30	
	必修	基礎講座Ⅳ(介護福祉)	講	4	60					4	60	
	必修	基礎講座Ⅴ(柔道入門)	講	4	60					4	60	
基礎分野小計				14	210					14	210	
専門基礎分野 (13)	必修	解剖学Ⅰ	講	4	60					4	60	
	必修	解剖学Ⅱ	講			4	60			4	60	
	必修	生理学Ⅰ	講	4	60					4	60	
	必修	生理学Ⅱ	講			4	60			4	60	
	必修	運動学	講			4	60			4	60	
	疾病と障害 (12)	必修	衛生学・公衆衛生学	講	4	60					4	60
		必修	病理学概論	講			4	60			4	60
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講	2	30					2	30
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講			4	60			4	60
		必修	外科学概論	講			4	60			4	60
		必修	整形外科学Ⅰ	講			2	30			2	30
		必修	整形外科学Ⅱ	講					2	30	2	30
	健康医療福祉と (8)	必修	リハビリテーション医学	講			4	60			4	60
		必修	関係法規	講					4	60	4	60
		必修	柔道Ⅰ	実			2	60			2	60
必修	柔道Ⅱ	実					2	60	2	60		
専門基礎分野小計				14	210	32	510	8	150	54	870	
専門分野 (16)	柔道整復学(9)	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講	2	30				2	30	
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講	2	30				2	30	
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講	2	30				2	30	
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講	2	30				2	30	
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講	2	30				2	30	
	臨床柔道整復学(14)	必修	柔道整復学Ⅰ	講					2	30	2	30
		必修	柔道整復学Ⅱ	講	2	30					2	30
		必修	柔道整復学Ⅲ	講	2	30					2	30
		必修	柔道整復学Ⅳ	講					2	30	2	30
		必修	柔道整復学Ⅴ	講			2	30			2	30
		必修	柔道整復学Ⅵ	講					2	30	2	30
		必修	柔道整復学Ⅶ	講			2	30			2	30
		必修	柔道整復学Ⅷ	講					2	30	2	30
		必修	柔道整復学Ⅸ	講			2	30			2	30
		必修	柔道整復学Ⅹ	講	2	30					2	30
	柔道整復実技(16) (臨床実習を含む)	必修	柔道整復実技Ⅰ	実	1	30					1	30
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実			1	30			1	30
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実					1	30	1	30
		必修	柔道整復実技Ⅳ	実			2	60			2	60
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実					2	60	2	60
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実					2	60	2	60
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実					2	60	2	60
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実					1	30	1	30
		必修	柔道整復実技Ⅸ	実					2	60	2	60
		必修	柔道整復実技Ⅹ	実					1	30	1	30
専門分野小計				17	285	10	210	19	450	46	945	
合計				45	705	42	720	27	600	114	2025	
応用分野	必修	応用講座Ⅰ(画像)	講					2	30	2	30	
	必修	応用講座Ⅱ(国試対策)	講					2	30	2	30	
	必修	応用講座Ⅲ(演習)	講					4	60	4	60	
応用分野小計				0	0	0	0	8	120	8	120	
総合計				45	705	42	720	35	720	122	2145	

鍼灸学科昼間部 2・3年

別表
鍼灸学科昼間部 学年別授業内容及び単位数

教育内容	必/選	科目名	方法	1学年		2学年		3学年		計		
				単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 (14)	必修	基礎医学Ⅰ	講	2	30					2	30	
	必修	栄養学	講	2	30					2	30	
	必修	介護福祉	講	4	60					4	60	
	必修	スポーツ科学	講			4	60			4	60	
	必修	臨床心理学	講			2	30			2	30	
基礎分野小計				8	120	6	90	0	0	14	210	
専門基礎分野 人体の構造と機能 (13)	必修	解剖学Ⅰ	講	4	60					4	60	
	必修	解剖学Ⅱ	講	4	60					4	60	
	必修	解剖学Ⅲ	講			4	60			4	60	
	必修	生理学Ⅰ	講	4	60					4	60	
	必修	生理学Ⅱ	講	4	60					4	60	
	必修	生理学Ⅲ	講			2	30			2	30	
	疾病の成り立ちと 予防及び回復の促進 (12)	必修	病理学概論	講			4	60			4	60
		必修	衛生学・公衆衛生学	講	4	60					4	60
		必修	臨床医学総論Ⅰ	講			6	90			6	90
		必修	臨床医学各論Ⅰ	講			2	30			2	30
		必修	臨床医学各論Ⅱ	講					4	60	4	60
	健康医療福祉と はり及びきゅうの理念(2)	必修	臨床医学各論Ⅲ	講					4	60	4	60
		必修	リハビリテーション医学	講					4	60	4	60
必修		医療概論	講	2	30					2	30	
必修	関係法規	講	2	30					2	30		
専門基礎分野小計				24	360	18	270	12	180	54	810	
専門分野 基礎はり学 基礎きゅう学 (7)	必修	東洋医学概論	講	4	60					4	60	
	必修	経絡経穴概論	講	4	60					4	60	
	必修	鍼灸理論Ⅰ	講	2	30					2	30	
	臨床はり学 臨床きゅう学 (10)	必修	鍼灸理論Ⅱ	講			4	60			4	60
		必修	東洋医学臨床論Ⅰ	講			4	60			4	60
		必修	東洋医学臨床論Ⅱ	講					2	30	2	30
		必修	東洋医学臨床論Ⅲ	講					2	30	2	30
	社会はり学・社会きゅう学(2)	必修	身体診察	講			2	30			2	30
		必修	地域医療と鍼灸	講					2	30	2	30
	実習 (臨床実習を含む) (16)	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実	4	120					4	120
		必修	はりきゅう実技Ⅱ	実			4	120			4	120
		必修	はりきゅう実技Ⅲ	実					4	120	4	120
		必修	経絡経穴実習	実			1	30			1	30
		必修	臨床中医学	実			1	30			1	30
	総合領域(10)	必修	臨床実習	実					2	90	2	90
		必修	総合講座Ⅰ	講			2	30			2	30
必修		総合講座Ⅱ	講					2	30	2	30	
必修		総合講座Ⅲ	講					2	30	2	30	
必修		総合講座Ⅳ	講					4	60	4	60	
必修	総合講座Ⅴ	講					2	30	2	30		
専門分野小計				14	270	18	360	22	450	54	1080	
合計				46	750	42	720	34	630	122	2100	
応用分野	必修	応用講座Ⅰ(生理学)	講					2	30	2	30	
	必修	応用講座Ⅱ(病理学)	講			2	30			2	30	
	必修	応用講座Ⅲ(臨床医学)	講					2	30	2	30	
	必修	応用講座Ⅳ(東洋医学概論)	講					2	30	2	30	
	必修	応用講座Ⅴ(経絡経穴概論)	講					2	30	2	30	
	必修	応用講座Ⅵ(鍼灸理論)	講					2	30	2	30	
	必修	応用鍼灸Ⅰ	講			2	30			2	30	
	必修	応用鍼灸Ⅱ	講					2	30	2	30	
	必修	特別講座Ⅰ	講	1	20					1	20	
	必修	特別講座Ⅱ	講			1	20			1	20	
	必修	IT講座	講	2	30					2	30	
応用分野小計				3	50	5	80	12	180	20	310	
総合計				49	800	47	800	46	810	142	2410	

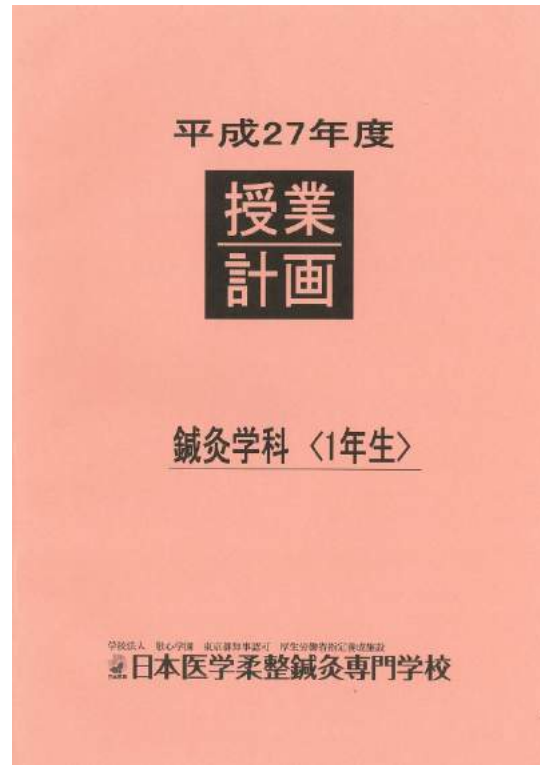
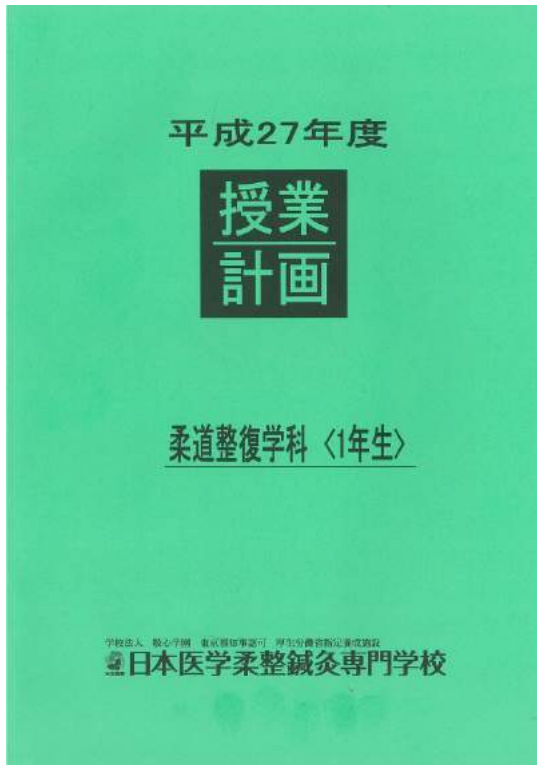
別表
鍼灸学科夜間部 学年別授業内容及び単位数

教育内容	必/選	科目名	方法	1学年	2学年	3学年	計	
				単位;時間数	単位;時間数	単位;時間数	単位;時間数	
基礎分野 (14)	必修	基礎医学Ⅰ	講	2; 30			2; 30	
	必修	介護福祉	講	4; 60			4; 60	
	必修	臨床心理学	講		2; 30		2; 30	
	必修	栄養学	講	2; 30			2; 30	
	必修	スポーツ科学	講		4; 60		4; 60	
基礎分野小計				8; 120	6; 90		14; 210	
専門基礎分野 (13)	必修	解剖学	講	8; 120			8; 120	
	必修	生理学	講	8; 120			8; 120	
	必修	病理学概論	講		4; 60		4; 60	
	必修	衛生学・公衆衛生学	講	4; 60			4; 60	
	必修	臨床医学総論Ⅰ	講		4; 60		4; 60	
	必修	臨床医学総論Ⅱ	講		2; 30		2; 30	
	必修	臨床医学各論Ⅰ	講		4; 60		4; 60	
	必修	臨床医学各論Ⅱ	講		2; 30		2; 30	
	必修	臨床医学各論Ⅲ	講			2; 30	2; 30	
	必修	リハビリテーション医学	講		4; 60		4; 60	
健康医療福祉と はり及びきゅうの理念(2)	必修	医療概論	講	2; 30			2; 30	
	必修	関係法規	講			2; 30	2; 30	
専門基礎分野小計				22; 330	20; 300	4; 60	46; 690	
専門分野 (7)	必修	基礎はり学	必修	鍼灸理論Ⅰ	講	2; 30		2; 30
	必修	基礎きゅう学	必修	東洋医学概論	講	4; 60		4; 60
	必修		必修	経絡経穴概論	講	4; 60		4; 60
	必修	臨床はり学	必修	鍼灸理論Ⅱ	講		4; 60	4; 60
	必修	臨床きゅう学	必修	東洋医学臨床論Ⅰ	講		2; 30	2; 30
	必修		必修	東洋医学臨床論Ⅱ	講		2; 30	2; 30
	必修		必修	身体診察	講		2; 30	2; 30
	必修	社会はり学社会きゅう学(2)	必修	地域医療と鍼灸	講		2; 30	2; 30
	必修	実習 (臨床実習を含む)	必修	はり・きゅう実技Ⅰ	実	2; 60		2; 60
	必修		はり・きゅう実技Ⅱ	実	2; 60		2; 60	
	必修		はり・きゅう実技Ⅲ	実		2; 60		2; 60
	必修		はり・きゅう実技Ⅳ	実		2; 60		2; 60
	必修		はり・きゅう実技Ⅴ	実		2; 60		2; 60
	必修		はり・きゅう実技Ⅵ	実		2; 60		2; 60
	必修		臨床中医学	実		2; 60		2; 60
	必修	臨床実習	実			2; 90	2; 90	
総合領域(10)	必修	総合講座Ⅰ	講		2; 30		2; 30	
	選必	総合講座Ⅱ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅲ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅳ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅴ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅵ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅶ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅷ	講			2; 30	2; 30	
	選必	総合講座Ⅸ	講			2; 30	2; 30	
専門分野小計				14; 270	16; 330	18; 390	48; 990	
合計				44; 720	42; 720	22; 450	108; 1890	
応用分野	選択	国試対策	講			8; 120	8; 120	
	選択	臨床特講Ⅰ(美容鍼灸)	講			2; 30	2; 30	
	選択	臨床特講Ⅱ(スポーツ鍼灸)	講			2; 30	2; 30	
	選択	臨床特講Ⅲ(中医鍼灸)	講			2; 30	2; 30	
	選択	臨床特講Ⅳ(心身医学)	講			2; 30	2; 30	
	選択	中国臨床研修	講		3; 45		3; 45	
	選択	特別講座(解剖・学食・施設見学等)	講		1; 15		1; 15	
応用分野小計				4; 60	4; 60	20; 300	20; 300	
総合計				48; 780	46; 780	42; 750	128; 2190	

※ 選択必修(選必)の中から、8単位(120時間)以上取得しなければならない。

■ 授業方法及び内容、年間の授業計画

下記添付「授業計画（冊子）」に記載。ご希望の方にはお渡しさせていただきます。



③ 進級・卒業の要件等

(修了の認定)

学則 第18条 校長は、教育課程の定めるところにより、各学年で修了すべき科目について試験を行い、合格者に対して該当科目の修了を認定する。但し、実習については、実習の成績によって修了を認定することができる。

試験の受験資格は各科目の総授業時間数の3分の2以上の出席を要する。

成績評価は目標の達成度を評定し、さらに学習態度及び就学状況を重視する。90点以上をAA、80点以上89点までをA、70点以上79点までをB、60点以上69点までをCとする。59点以下はDとして不合格とする。

(卒業)

第19条 本校所定の課程を修了した者には、卒業証書を授与する。

④ 学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等

学科	取得を目指す資格
柔道整復学科	柔道整復師（柔道整復師国家試験受験資格）
鍼灸学科	はり師・きゅう師（はり師・きゅう師国家試験受験資格）

⑤ 資格取得・検定試験合格等の実績

※平成 26 年度実施 国家試験結果（新卒）

学科	昼/夜	資格	受験者	合格者	合格率
柔道整復学科	昼間部	柔道整復師	46	34	73.9%
	夜間部	柔道整復師	49	34	69.4%
鍼灸学科	昼間部	はり師	44	37	84.1%
		きゅう師	44	34	77.3%
	夜間部	はり師	36	26	72.2%
		きゅう師	36	26	72.2%

⑥ 卒業生数・卒業後の進路（進学者数・主な進学先・就職数・主な就職先）

		卒業生	就職・開業		進学
			関係分野	関係分野外	
柔道整復学科	昼間部	46	45	0	7
	夜間部	50	42	3	1
鍼灸学科	昼間部	44	34	0	2
	夜間部	36	20	2	4
全体		176	141	5	14

3. 教職員

① 教職員数

職名	人数
専任教員	20
非常勤講師	80
職員	11

② 教員の専門性

取得資格	人数
柔道整復師	9
はり師・きゅう師	10

4. キャリア教育・実践的職業教育

- キャリア教育・職支援等への取組状況

Career support

キャリア支援センター

3年間にわたる多彩なサポートを通じて、社会に必要とされる医療人を育成。

“希望進路実現率100%”を実現するために、クラス担任と連携して、

それぞれの夢を実現するキャリア支援センターを設置しています。

キャリア教育から就職支援まで一貫してサポートしますので、臨床現場で活躍できる医療人をめざせます。

入学前のコミュニケーションワークショップで、人と関わるチカラを磨き、仕事とは？柔道整復師・鍼灸師とは？を、常に考えていきます。ノートの取り方や人との関わり方、医療現場で必要とされるITスキルなども身につけられます。

一人ひとりに
応じた「はぐくむ」
キャリア支援

個別面談でそれぞれの希望を聞き、まだ将来を決めかねている学生さんとは、一緒に将来のキャリアをデザインをしていきます。日本医専は養成校のため、資格取得が目標ですが、その資格をどう活かしていくのか、将来の夢を持ってこそ、勉強も楽しくなるもの。志を持ち、夢を叶えるために学んでいきましょう。

1年次から始まる
キャリアデザイン
プログラム

200院を超える
就職説明会や
業界セミナーの
実施

昼間部と夜間部の授業の合間に、キャリア支援プログラムを開講しています。学年・学科問わず異年次交流も可能です。また、学生同士の情報交換の場となっており、各学科で行なわれる専門教育をスムーズに理解する、相互支援にもつながっています。救命講習や認知症サポーター養成講座など、社会に役立つ講座も開講しています。

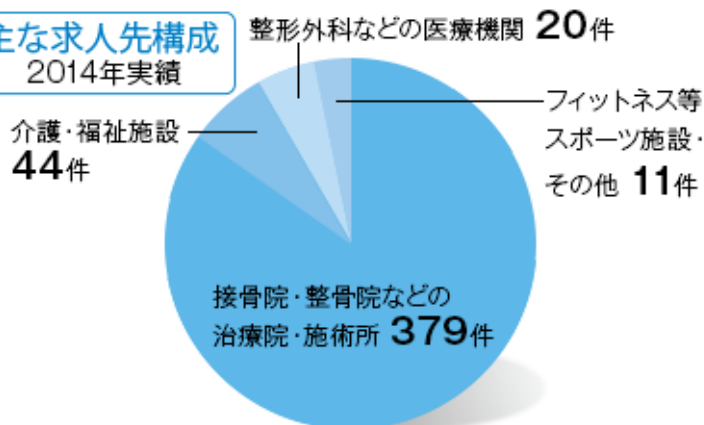
“希望進路
実現率100%”
個々のビジョン作りと
その実現

経営が安定している治療院の指標の一つに、「定期的に新卒を採用している」ということが挙げられます。研修が充実している院、外傷が診られる院、福利厚生が整っている院、家から近い院など、一人ひとりが重要視する条件を見極め、それらを実現できる治療院と一緒に見つけていきましょう。施設見学や職場体験も、サポートしています。

柔道整復学科

医療関係の就職先の他、スポーツトレーナーなど資格を生かしたニーズは益々広がっています。

主な求人先構成
2014年実績



求人数

1287名

※2014年実績

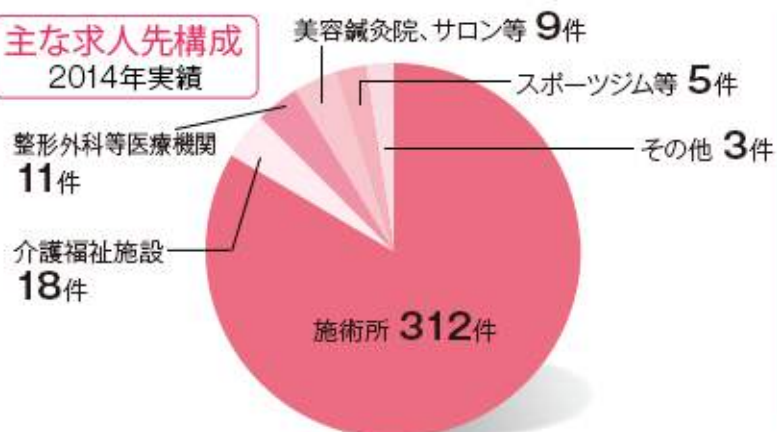
学生1人あたり11.5倍

※求人数÷卒業生数

鍼灸学科

美容鍼灸をはじめとしたエステ関連の就職先も多く男女を問わずニーズの高まりのある資格です。

主な求人先構成
2014年実績



求人数

1104名

※2014年実績

学生1人あたり13.8倍

※求人数÷卒業生数

5. 様々な教育活動・教育環境

- 学校行事への取組活動・課外活動（部活動・サークル活動）

日本医専ならではのクラブ&サークル

学生が主体の運営で、授業の発展的な内容を仲間と一緒に楽しみながら身につけられることが魅力。



美容鍼灸の施術方を練習



学術大会に多数研究発表



各種大会にも出場



手技療法(柔道整復)の研究・発表をしています。

6. 学生の生活支援

● 学生支援への取組状況

① ハラスメント委員会の設置

ハラスメント委員会を設置し、学生からのSOSに即対応できるよう努めています。下記は「学生向けガイドブック」です。学生に本校のハラスメント体制をお知らせすべく作成しました。平成26年1月より学生に配布予定です。



人権侵害の被害にあったら

- ひとりで悩まないでください
信頼できる人に相談しましょう。「自分にも責任があるから」「先生だからかたない」「トラブルメーカーというレッテルを貼られないくない」と思わないでください。
- 不快だという気持ちを相手に伝えましょう
相手は、あなたが不快に思っていることに気づいていないかもしれません。無視したり、黙っていても、状況は改善されず、かえって相手にその意動を受け入れていると誤解され、エスカレートしてしまう場合があります。
- 被害は記録しておきましょう
いつ、だれが、どこで、何をしたらか、どのように感じたか、他にいた人などの記録をとっておきます。メールは保存しておきましょう。事実の確認や証明のためにも重要です。

日本医専の方針

本校ではセクシャルハラスメントなど人権侵害のない良好な就学環境を維持・向上させるために、ハラスメント委員会を構成し、「ハラスメント防止に関する指針」を制定し、人権侵害の防止・解決に取り組んでいます。本校関係者がハラスメントを行った場合、行為の具体的態様・当事者同士の関係・被害者の意向や心情などを総合的に判断し、処分を決定します。

学生向けガイドブック

いつでも
だれもが大事に
される学校に

人権侵害をしない、
させない。

学校法人敬心学園
日本医学薬整鍼灸専門学校
ハラスメント委員会

ハラスメントは、個人の尊厳を不当に傷つけ、精神的・身体的損害を与える許されない行為です。教育の場にハラスメントが存在すると、秩序が乱れ、人間関係が悪化し、被害者の精神状態が悪化することもあります。だれもがハラスメントについての理解を深め、ハラスメントのない学校の作りを教職員・学生ともに目指していきましょう。

ハラスメントを「しない」「させない」

- 性に関する受け止め方は、個人や性別、世代で大きな差があります。
- 相手がいやがること、拒否することは決して行わないことです。相手は上下関係や人間関係を考慮し、拒むことができず我慢していることを認識する必要があります。拒否されないことを合意、同意と勘違いしないことです。
- 相談を受けた時、問題提起する人をトラブルメーカーとみなしたり、当事者同士の個人的な問題と片づけないでください。
- 学内だけでなく、その人とのかわりすべてが対象となります。宴会の場ではとくに気を付けましょう。
- 年齢や立場にかかわらず、お互いの人権を尊重し、大切なパートナーであるという意識を持つことです。

●セクシャルハラスメント

意図しているかどうかに関わらず、相手が不快に思ったり、屈辱感を持つ言動や行動で人格を傷つけることです。「セクハラ」の認定に関しては被害者の判断を基準とする」という点がポイントです。男性から女性には限りません。

- ・性的な話をしたり、印刷物やネット画像などを見せる。
- ・食事やデートにしつこく誘ったり、電話やメールを送る。
- ・身体に不必要に接触する。
- ・容貌や体型についてあれこれ言う。
- ・「女のくせに」「男のくせに」と性差別的発言をする。
- ・「セクハラがあったなんてあなたに嫌があったのでは」と被害者を責める。

●パワーハラスメント

優位的な立場にある者が本来の責務の範囲を超えて、継続的に人格や尊厳を傷かすことで悪欲や環境を著しく悪化させる行為です。

- ・暴行や傷害。
- ・脅迫・名誉毀損・侮辱・ひどい暴言。
- ・仲間外し・無視。
- ・業務上明らかに不要なことを要求する。
- ・理由なく他と差別する。
- ・私的なことに過度に立ち入る。

●アカデミックハラスメント

優越した地位にある者がその権力を利用した暴言の発言や行為等の嫌がらせにより、相手に精神的・肉体的障害を及ぼし、個人の正当な権利である就学の機会を奪うことを指します。

- ・学生の能力や人格を否定したり、無条件に教員の意向に従わせる言動を行う。
- ・成績評価に無関係な事柄を成績に結びつける発言をする。
- ・失敗やミス、繰り返し過度に追及したり、人前で相手が委縮するような叱責をする。
- ・親密な関係を強要する。
- ・文献や図書、機器類を使わせないなど、学習・研究活動を直接的・間接的に妨害する
- ・本人がその場にいるかどうかにかかわらず、学生を傷つけるネガティブな言動を行う
- ・家族関係や友人、恋人のことなどについて根掘り葉掘り聞くなど、プライベートなことについて、必要以上に知ろうとしたり、介入しようとしたりする。
- ・必要もなく、深夜の指導や他人の目が行き届かない状況で個人指導を行う。
- ・飲酒の強要、イッキ飲ませ、意図的な良いつぶし、飲めない人への配慮を欠くこと、酔ったうえでの迷惑行為。

① 中途退学

本校の中でも中退率の高い昼間部（柔道整復学科、鍼灸学科ともに）に対し、下記のような対策を行っています。

下記のような対策を行った効果が数字（柔道整復学科中退率、H25：11.4%→H26：5.9% 鍼灸学科中退率、H25：4.4%→H26：3.8%）として表れています。

学科	対策	中退率(%)	
		H25	H26
柔道整復学科 (昼間部)	1. 学生本人だけでは限界がると感じ、保護者（保証人）と連携を持つよう下記の事項を実施。 ① 授業出席状況・成績表の送付（全学生一斉） <ul style="list-style-type: none"> ◆ 5月中旬…授業出席状況（前期授業開始から約4週間分） ◆ 9月上旬…前期成績表・授業出席状況（前期分） ◆ 10月中旬…授業出席状況（後期開始から約4週間分） ◆ 3月中旬…後期成績表・授業出席状況（年間分） ② 毎月の授業出席状況の送付（希望者のみ） <ul style="list-style-type: none"> ◆ 担任かのコメント入り。保護者からの返信あり。 ③ 授業出席状況の送付（該当者のみ） <ul style="list-style-type: none"> ◆ 随時…あと1回その科目を欠席すると定期試験の受験資格を喪失する場合 2. 学科長・担任面談の増加 3. 前期終了後、再々試験まで実施 4. 基本残す（進級）こと前提の対応	11.4	5.9
鍼灸学科 (昼間部)	1. 学生本人とだけの対応では限界があると感じ、保護者（保証人）との連携を持つように下記の事項を実施。 ① 授業出席状況・成績表の送付（全学年一斉） <ul style="list-style-type: none"> ◆ 9月上旬…授業出席状況・成績表（前期分） ◆ 3月中旬…授業出席状況・成績表（年間分） 	4.4	3.8

7. 学生納付金・就学支援

① 学生納付金の取り扱い（納入金額）

②	過程	入学金	授業料	施設実習費	初年度合計	2年次合計	3年次合計	3年間総計
柔道整復学科	昼間部	150,000	1,000,000	400,000	1,550,000	1,400,000	1,400,000	4,350,000
	夜間部	150,000	900,000	350,000	1,400,000	1,250,000	1,250,000	3,900,000
鍼灸学科	昼間部	150,000	1,000,000	300,000	1,450,000	1,300,000	1,300,000	4,050,000
	夜間部	150,000	900,000	350,000	1,400,000	1,250,000	1,250,000	3,900,000

③ 活用できる経済的支援措置の内容等（納入時期・奨学金・授業料減免等の案内等）

✧ 入学時の学費納入負担を少なくするため、下記の学費サポートを行っています。

学費サポート

本校は、柔道整復師、鍼灸師を目指す学生の経済的支援をするため、入学者全員を対象とした学費支援制度のほか各種奨学金制度・教育ローン・教育訓練給付金制度・学費分納制度などの学費サポートがあります。

	学費支援金	早期出願特典	教育ローン	奨学金制度	学費分納制度	一般教育訓練給付金制度	専門実践教育訓練給付金制度
入学前	○	○	○	○	-	-	-
在学中	-	-	○	○	○	-	-
卒業前	-	-	-	-	-	○	○

学費分納制度（入学前・在学中）

学費は年額の一括全納を原則とします。

ただし、2回・4回分納をご希望の方は、学費相談担当までご相談ください。

4回分納の場合は、お申込書のご記入が必要です。

学費支援金 & 早期出願特典（入学前）

[学費支援金（入学者全員）] 初年次の学費から、15万円を入学者全員に免除いたします。

[早期出願特典] 10月末までにご出願いただいた方は、更に10万円免除いたします。

奨学金制度（在学中）

入学後に貸与されます。2・3年次学費や生活費にご利用いただけます。

	日本学生支援機構		東京都育英資金
	第一種	第二種	
貸与月額	自宅 53,000円 自宅外 60,000円	30,000円、50,000円、80,000円、 100,000円、120,000円から選択	53,000円
利息	無利息	利息付（在学中は無利息） ※年利上限3%の固定または見直し方式	無利息
返済期間	貸与終了から 7ヶ月後～最長13年	貸与終了から 7ヶ月後～最長20年	貸与終了から 6ヶ月後～最長14年

教育ローン(在学中)

入学前に貸与されます。初年次学費等にご利用いただけます。

	日本政策金融公庫(国の教育ローン)	セディナ
融資金利	2.15%(2015.8現在)	実質年率3.90%(2015.8現在)
貸付の内容	350万円以内	原則、5万円以上500万円以下
返済方法	毎月元利均等返済、元金据置き返済 ボーナス月増額返済も可能	元利均等分割払、据置型分割払
返済期間	入学から15年以内	半年～10年
お問合せ先	コールセンター 0570-008656	セディナ 「学費ローン」申込みから申し込みが可能

	オリコ「学費サポートプラン」	ジャックス「教育ローン」
融資金利	3.9%(2015.8現在)	3.9%(2015.8現在)
貸付の内容	500万円以内	500万円以内
返済方法	ステップアップ返済方式、 通常返済方式、親子リレー返済	月々均等払いプラン、 元金据え置きプラン等
返済期間	返済期限は 毎月の返済金額から決定	入学から15年以内
お問合せ先	オリコ 「学費サポートプラン」申込み から申し込みが可能	 0120-338-817 「敬心グループ提携 教育ローンのご利用」 とお伝えください

一般教育訓練給付金制度(3年次)

働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)が、厚生労働大臣の指定する教育訓練(下記の対象学科)を受講し修了した場合、本人自らが教育訓練施設(本校)に支払った教育訓練経費の一定割合に相当する額をハローワークから支給します。

給付条件	
対象学科	・ 柔道整復学科 昼間部 ・ 鍼灸学科 昼間部 ・ 柔道整復学科 夜間部
支給資格者	①雇用保険の一般被保険者 受講を開始した日において、雇用保険の一般被保険者である方のうち、支給要件期間が3年以上(初めて教育訓練給付を受けようとする場合は、当分の間、支給要件期間が1年以上)ある方。
	②雇用保険の一般被保険者であった方 受講を開始した日において一般被保険者でない方のうち、一般被保険者資格を喪失した日(離職日の翌日)以降、受講開始日までが1年以内であり、かつ支給要件期間が3年以上(初めて教育訓練給付を受けようとする場合は、当分の間、支給要件期間が1年以上)ある方。
支給について	受講を修了した場合、教育訓練施設(本校)に支払った教育訓練経費の20%に相当する額(上限10万円)がハローワークから支給されます。
支給申請の手続き	受講修了後1か月以内に、申請者本人の住所を管轄するハローワークに対して「教育訓練給付金申請書」などの所定の書類を提出します。教育訓練給付金は卒業後の支給となります。

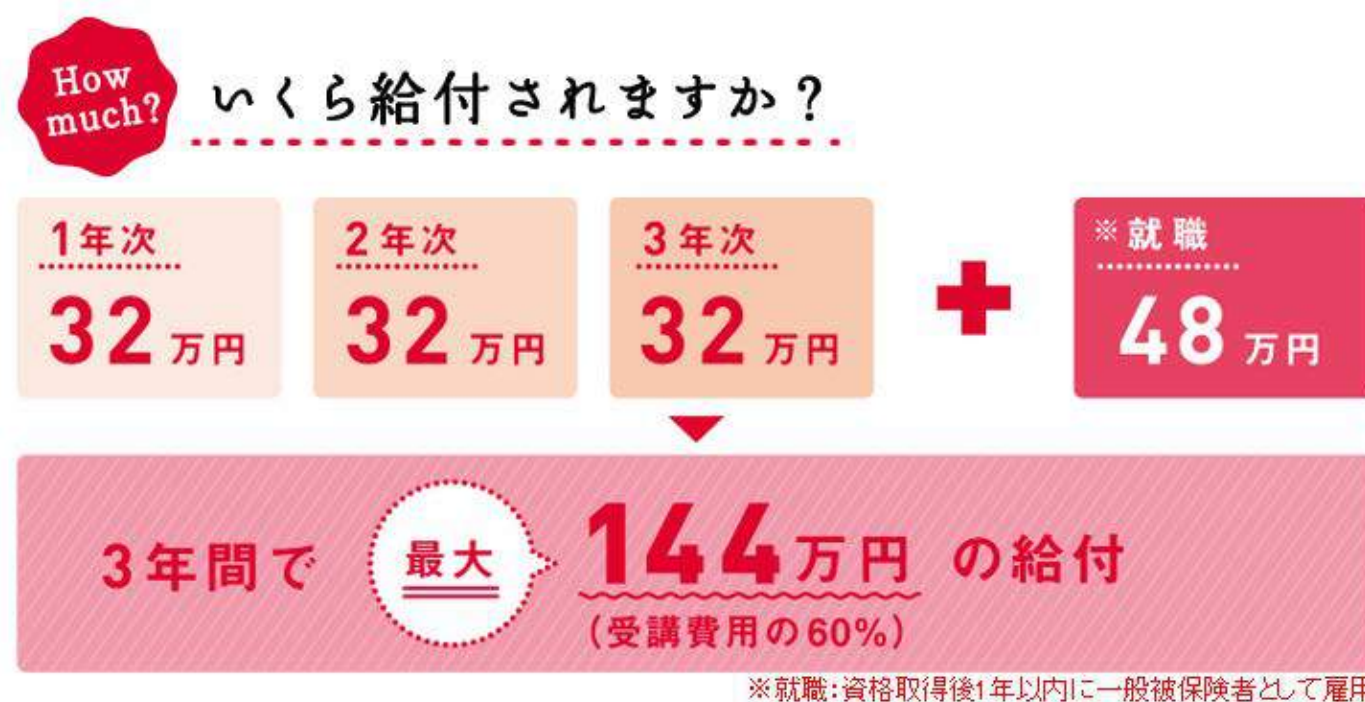
※詳しい制度の内容についてはハローワークのホームページをご覧ください。

専門実践教育訓練給付金

本校の取組みが厚生労働省に認められました。

専門実践教育訓練給付金制度の対象講座に指定されるためには、資格試験の受験率及び合格率、就職・在職率などの指定基準を満たすものとして、厚生労働大臣が指定した講座であることが条件となります。

※2016年4月入学希望者の方は、2月中にハローワークで手続きが必要です。



8. 学校の財務

本学園では私学法改正により義務付けされる前から、財務情報公開を打ち出しており、本学園は財務情報を公開しております。本校では開示情報があれば、財務情報を公開します。また本校ホームページにも財務情報を掲載しております。

9. 学校評価

柔道整復学科、鍼灸学科ともに、教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会を開催いたしました。各委員会の議事録を下記に添付させていただきます。

→次頁に記載

平成 26 年度 第 1 回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 26 年 9 月 18 日（木）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長・委員長）
 - 木下 美聡（学科長）
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ接骨治療院 院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 平成 27 年度 新カリキュラムの申請手順について（スケジュール等説明）

2. 検討事項

- 平成 27 年度 新カリキュラム内容について
 - 日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）
-

1. 報告事項

新カリキュラムの申請スケジュールを奥田教務部長が報告

2. 検討事項

<平成 27 年度 新カリキュラム内容について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 近年、福祉業界（介護）に「機能訓練指導員」として就職する学生が多いとのこと。その現状を踏まえ、「機能訓練指導員」としての知識・技術を、授業の中で教えて行かなくてはならないのでは。
- 福祉業界（介護）に進む学生には、理論だけではなく、老人の接遇等も教えて頂きたい。
- 「グローバル人材育成」科目の目的・内容等を学生には分かりやすく説明するべき。
- スポーツトレーナー希望の学生には、実技授業の中で、柔道整復術をしっかり教えて頂きたい。「評価－整復－固定」の一連をしっかりと教えて頂きたい。
- 「関係法規」を何故、2 単位に減らしたのか。臨床現場に出て一番大切。国家試験対策ではなく、臨床現場に出て役に立つ関係法規を教えて頂きたい。
- 「関係法規」では、やっていいことと悪いことなど、実例を挙げて教えて頂きたい。

現場に即した科目内容にしてほしい。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">■ 授業計画やリエンション等を使い、学生がその科目の目的・授業内容等が明確に理解できるようにする。■ 国家試験合格だけでなく、臨床現場において必要な知識・技術等も授業の中でしっかりと修学させるような授業内容・構成にする。 |
|---|

<日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）>

① アーリー・エクスポージャー（早期臨床体験学習）制度について

- 学生は、治療院で見学するだけになるが、それでも大きな意味がある。実際に臨床現場を見て、色々なことを感じる事が大切である。
- その際の評価（学生に対して）もやるべき。評価表は、学校側で作成して頂きたい。
- 患者様に対し、失礼がない対応ができるようになってから行かせた方がいいのではないか。
- 治療院内での患者様に対する接遇は、治療院で院長が教えればいいのか。
- 現場の厳しさも知ることだろう。とても有意義だ。業界の人間としても、是非進めて頂きたい。
- 昼間部だけではなく、夜間部（社会人経験がある）に対しても実施をするべき。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 次年度実施に向け、詳細を詰めていく。 |
|--|

② 卒業インターシップ制度

- チェーン展開をしている接骨院の中には、経営面ばかりを考え、技術研修が不十分の接骨院も多い。是非、学校で卒業研修をして頂き、本物の柔整師を育て、社会貢献をして頂きたい。
- 卒業生にとって、初めての就職先は非常に重要（どの先生に学ぶかは、技術向上において大きく影響するから）。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 協力施術所を選ぶ基準を明確にする■ 研修生に対する報酬は慎重に検討する |
|--|

<平成 26 年度 第 2 回委員会開催について>

平成 27 年 2 月 19 日（木） 18：00 ～ 19：00

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 1 回 柔道整復学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 26 年 9 月 18 日（木）19：10
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長・委員長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長）
 - 木下 美聡（学科長）
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ接骨治療院 院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 平成 25 年度 自己評価実施報告（重要課題等報告）
- ② 平成 25 年度 自己評価を受け、本年度の実施事項報告

2. 検討事項

- 平成 27 年に向け、平成 25 年度自己評価重要課題の検討
-

1. 報告事項

- ① 平成 25 年度 自己評価実施報告（重要課題等報告）
→ 添付資料を基に、渡邊委員長が説明
- ② 平成 25 年度 自己評価を受け、本年度の実施事項報告
→ ・保護者との連携強化のため保護者会を実施（基準 5 学生支援）
・就職率の向上のためキャリア支援センターを設立（基準 4 学修成果）
・ハラスメント対策のため、外部講師を招いて勉強会を実施（基準 9 法令等の遵守）。

2. 検討事項

<平成 27 年度に向け、平成 25 年度自己評価重要課題の検討>

添付資料（平成 25 年度自己評価）を見ながらの意見交換がなされた（下記記載）

- 低学力者に対する

（文責／松丸）

平成26年度 第1回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成26年9月18日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101教室
- 出席者：9名（委員：8名・記録：1名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長・委員長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会 副会長）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 平成27年度 新カリキュラムの申請手順について（スケジュール等説明）

2. 検討事項

- 平成27年度 新カリキュラム内容について
 - 日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）
-

1. 確認事項

新カリキュラムの申請スケジュールを奥田教務部長が報告

2. 検討事項

<平成27年度 新カリキュラム内容について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 単位数が減っているが大丈夫なのか
→回答：1単位の時間数を増やしているため、授業時間が減ってはいない（カリキュラム表参照）
- 低学力の学生に対しての対策を聞きたい
→回答：基礎学力テストを新垣に実施。その結果を基に対象者を決め、補講を実施している（4/14開始）
- 学生が自信を持って卒業できるようなカリキュラムにして頂きたい。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- 学生が自信を持って卒業して行けるようなカリキュラム（教育課程）・課外授業等を実施する。
- 低学力の学生に対して、補講等を行い、実力の向上を目指せるような体制を整える。

<日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）>

① アーリー・エクスポージャー（早期臨床体験学習）制度について

- 目的は大賛成。是非、実施をしてほしい。
- 若い学生だけではなく、年代が上の学生・社会人からの転職組にも必要。
- 昼間部だけではなく、夜間部も実施した方がいい。
- 年代が上の学生の方が卒業後、職につきにくい。その現状を改善するためにも必要な制度。
- 在学中、治療院以外の仕事をしている学生は、特に必要。資格修得後、全く臨床現場を知らずに就職するのは、雇用側としても困惑することが多い。
- 高卒新卒の学生に対しては、行く前にマナー研修等が必要。
- 評価をし、優秀者に対して卒業式で表彰してはどうか。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向で進めることが確認された。

- 次年度実施に向け、詳細を詰めていく。
- 同窓会に実施報告をし、詳細を詰めていく。

② 卒後インターシップ制度

- 制度としては魅力的。ただ、協力治療院を確保するのが難しいと思う。
- 現在、スタッフを確保するのに人材派遣会社に登録し紹介してもらっている。この制度は卒業生だけではなく、スタッフ確保という面で治療院としてもメリットが大きい。
- 同窓会も協力治療院確保に協力をさせて頂きたい。
- 実施期間は12ヶ月必要

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- 次年度に向け、詳細を詰めていく。
- 同窓会に実施報告をし、協力依頼を行う。

<平成26年度 第2回委員会開催について>

平成27年2月19日（木） 14:00 ～ 15:00

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 1 回 鍼灸学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 26 年 9 月 18 日（木）15：10
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長・委員長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会 副会長）
 - 藤原 良次（数式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 平成 25 年度 自己評価実施報告（重要課題等報告）
- ② 平成 25 年度 自己評価を受け、本年度の実施事項報告

2. 検討事項

- 平成 27 年に向け、平成 25 年度自己評価重要課題の検討
-

1. 報告事項

- ① 平成 25 年度 自己評価実施報告（重要課題等報告）
→添付資料を基に、渡邊委員長が説明
- ② 平成 25 年度 自己評価を受け、本年度の実施事項報告
→・保護者との連携強化のため保護者会を実施（基準 5 学生支援）
・就職率の向上のためキャリア支援センターを設立（基準 4 学修成果）
・ハラスメント対策のため、外部講師を招いて勉強会を実施（基準 9 法令等の遵守）。

2. 検討事項

<平成 27 年度に向け、平成 25 年度自己評価重要課題の検討>

添付資料（平成 25 年度自己評価）を見ながらの意見交換がなされた（下記記載）

- 各項目についての評価が、このフォーマットでは分かりづらい。
- 平成 25 年度は本校にとって、Re-Start の年となった。5 年後のあるべき姿の再構築を行い、平成 26 年度（本年度）、27 年度と、それらを形にしていく。
- 平成 25 年度は明確にし切れていなかった「学校の理念」「教育目標」を、本年度明確に定めた。

- 同窓会との連携を、より強化して行くべき。
- 教員のレベルの低さを感じる。学生だけではなく、教員を支援する体制も、もっと整えるべき。その姿勢を見て学生も成長する。

上記の意見を踏まえ、平成 27 年度に向け、下記の方針を進めて行くことを、組織として決定をした。

- 平成 25 年度に再構築を行った「5 年度のあるべき姿像」もとに、さらに具体的な落とし込みを行う。
- 本年度明確にした「学校の理念」の下、学校運営を行う。

<平成 26 年度 第 2 回委員会開催について>

平成 27 年 2 月 19 日（木） 15:10 ～ 16:10

(文責/松丸)

平成 26 年度 第 2 回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：10 名（委員：9 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長・委員長）
 - 木下 美聡（学科長）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ接骨治療院 院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の確認
- ② 平成 26 年度の教育活動報告
- ③ 「理念・教育目標」について

2. 検討事項

- 平成 27 年度の教育課程について
-

1. 報告事項

- ② 平成 26 年度の教育活動報告 → 前期実施事項の報告（保護者会）
- ③ 「理念・教育目標」について → 今回明確に打ち出した。その意図と意思を説明。

2. 検討事項

<平成 27 年度の教育課程について>

上記の議題について、奥田教務部長より方針・変更点等が説明され、下記のような意見が出された。

- 全体の方向性・意図は賛同できる。あとは各学年での到達度等が明確にし、学生側に伝え、理解させる工夫をしてほしい。
- 今までにないカリキュラム構成がいいと思う。あとは、科目間の連携を上手くとれるようにしてほしい。

<平成 27 年度 第 1 回委員会開催について>

平成 27 年 9 月 28 日中甸を予定（6 月頃日程のご相談をさせていただきます）

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 2 回 柔道整復学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）19：10
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長・委員長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長）
 - 木下 美聡（学科長）
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ接骨治療院 院長）

<本日の議題>

1. 確認事項

- ① 前回（9/18）会議の確認
- ② 平成 26 年度 活動報告

2. 検討事項

- 平成 27 年に向け、平成 25 年度自己評価重要課題の検討
-

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の報告
→添付資料を基に、渡邊委員長が説明
- ② 平成 26 年度 活動報告
→ハラスメント対策について、渡邊委員長が報告

2. 検討事項…平成 27 年度に向けて

委員から介護業界への就職状況について質問が出た。

- ◆ 就職の状況が詳しく知りたい。
- ◆ 柔道整復師としてではなく、機能訓練士として働く学生はどれくらいいるのか知りたい。
- ◆ 決して多いわけではないが、年々増えている。
- ◆ 業界としても介護の分野で何が出来るかを、しっかりと伝えて行かなくていけないと思う。
- ◆ 往診の際に機能訓練士の要素を行っている接骨院もある。
- ◆ 柔道整復師が活躍の場を広げるためにも、職業開拓も行っていかななくてはならない。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることを確認した。

- ◆ まず就職状況を把握する
- ◆ 学生が求めている就職の場を理解し、職業開拓を行って行かなくてはならない。
- ◆ 介護業界でも活躍の場があるということも、学生に知らせていきたい。

<平成 27 年度 第 1 回委員会開催について>

平成 27 年 9 月中旬を予定（6 月頃、日程のご相談をさせていただきます）

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 2 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長・委員長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会 副会長）
 - 藤原 良次（数式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の報告
- ② 平成 26 年度の教育活動報告
- ③ 「理念・教育目標」について

2. 検討事項

- 平成 27 年度の教育課程について
-

1. 報告事項

- ② 平成 26 年度の教育活動報告
→前期実施の報告（保護者会）
- ③ 「理念・教育目標」について
→今回明確に打ち出した報告と、その意図・思いを伝えた。

2. 検討事項

<平成 27 年度の教育課程について>

上記の議題について、青木学科長より方針・変更点等が説明され、下記のような意見が出された。

- ・ 実技の科目名が分かりやすい。
- ・ 科目名（実技）から内容が連想しやすい。
- ・ カリキュラム構成がいい。
- ・ 3 年間の教育課程の構成から、育てたい人材像が想像できる。
- ・ 実際の運用になると、問題点等出てくると思う。その際は、できる限り修正を加え、学生が習得しやすい環境（構成）を作ってほしい。

<平成 27 年度 第 1 回委員会開催について>

平成 27 年 9 月 28 日中旬を予定（6 月頃日程のご相談をさせていただきます）

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 2 回 鍼灸学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）15：10
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長・委員長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会 副会長）
 - 藤原 良次（数式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の報告
- ② 平成 26 年度 活動報告

2. 検討事項

- 平成 27 年に向けて
-

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の報告
→添付資料を基に、渡邊委員長が説明
- ② 平成 26 年度 活動報告
→ハラスメント対策について、渡邊委員長が報告

2. 検討事項…平成 27 年度に向けて

上記について、下記のような意見が出された。

- ◆ 鍼灸の現場はハラスメントが起きやすい。鍼灸師会への報告、相談等でも減っている印象はない。
- ◆ 学生に臨床現場で起こりうるハラスメントを、しっかりと伝えてほしい。
- ◆ セクハラだけではなく、パワハラと取られる場合もあることも伝えてほしい。
- ◆ ヒヤリハット事例も学生に伝えてほしい
- ◆ 臨床実習の授業の中で、ハラスメント事例も伝え、対応策も伝えてほしい。
- ◆ 同窓会でワークショップ（ハラスメント）を開催した方がいいのではないか。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることを確認した。

- ◆ ハラスメントになりうるポイント集を作成する
- ◆ ハラスメントの内容が関わってきた時に起こりうる事例を考え、学生に伝えていく。

<平成 27 年度 第 1 回委員会開催について>

平成 27 年 9 月中旬を予定（6 月頃、日程のご相談をさせていただきます）

（文責／松丸）

平成27年度 第1回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成27年9月16日（水）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11名
 - 長)
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
 - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
 - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 木下 美聡（学科長・議長）
 - 湯浅 有希子（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 柔道整復学科 教育カリキュラムについて
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
- 早期体験実習 アーリーエクスポージャーについて
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）について

2. 検討事項

- 育成人材要件とカリキュラムの連動について
-

1. 報告事項

- 柔道整復学科 教育カリキュラムについて
→「伝統柔整」「現代柔整」との説明を行う。
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
→昨年度の委員会で多く議題に上がった“マナー”“道徳”“態度”等を教える時間を、正規授業内に実施したことを報告。
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
→本校の専任教員が開業する接骨院に体験学習に行く。学生に配布しているポートフォリオを使用し報告。
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）

について

→学園の方針に沿って本校が行っている取り組みを紹介

2. 検討事項

<育成人材要件とカリキュラムの連動について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 明確ですばらしい。是非進めてほしい。
- 各学年での到達目標を明確にした方が、評価が行いやすくなるのではないかと。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 現在進めている方向性で進めて行く。■ 平成 28 年度カリキュラムの中で実施できるものから実施をしていく。■ 次回の会議の際に、進行状況を報告する予定。 |
|--|

<その他>

報告事項も含め、下記のような意見が出された。

① 教育カリキュラムについて

- 「現代柔整」の中で「カイロプラクティック」「タイマッサージ」を在学中に教えるのは何故か。開業という視点では分かるが。
- カイロプラクティックを教える際には、危険性を必ず教えてほしい。

(回答) 卒業してから必要性を感じ習得する卒業生もいる。実際に施術する際に事故が起これないよう“基礎中の基礎”を教えている。

- 「現代柔整」の表記で「カイロ」「タイマッサージ」と位置づけるのには疑問がある。この表記では現在行われている柔整では全員が「カイロ」「タイマッサージ」をやっているように思われる。むしろ、「現代柔整」とは超音波診断、様々な検査機器、物療機器を使用して行われている現在のやり方であって、「カイロ」「タイマッサージ」は補完療法に分類されるのでは。

- 「伝統柔整」という言い方にも疑問を感じる。

(回答) 今後検討していく

- 技術も大切だが“道徳”をしっかり教えてほしい。道徳心がかけていることが多い。現場としては、道徳をしっかり教えてほしい。

(回答) 学校としても道徳の必要性は重々理解している。今年度から正規授業の中にも“態度教育”を取り入れる。また、アーリーエクスポージャーの事前教育など、様々な場面で道徳の大切さを伝えている。

② 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて

体験実習受入先のせんせいより

- 学生には良い刺激になっているようだ
- 患者さんとも話をしている。

- 学生から積極的に質問は出ないが、会話をして行く中で色々と質問が出てくる。
- 忘れ物が多い。
- 途中、集中力が欠けている。

(文責／松丸)

平成 27 年度 第 1 回 柔道整復学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 16 日（水）19：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11 名
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
 - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
 - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 木下 美聡（学科長・議長）
 - 湯浅 有希子（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

3. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」実施報告（前回の振返り）
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
- 「キャリア支援」の活動報告

4. 検討事項

- 「「キャリア教育と支援」について
-

3. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」
→教職員向勉強会（平成 26 年 6 月 25 日）、3 年生向勉強会（平成 27 年 3 月 2 日）の実施報告。教材を通じ「個人情報」「関連法令」他内容を紹介。
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
→私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受審、現在準備を推進中。審査会の最終評価は平成 28 年 3 月末日の予定。
- 「キャリア支援」の活動報告
→一人ひとりに適したキャリア支援を目指した「職業理解」、「コミュニケーションスキル・アップ」、「進路指導」のためのセミナーや個別相談のプログラムを紹介。

4. 検討事項

<キャリア教育と支援について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 就職がゴールではない。地域に密着した治療院を開業するなど「学生に夢を持たせる」教育を。
- 柔整師、介護、開業など就職後の状況をフィードバックする仕組み、システムを。追跡調査していくとどのような進路が本当に良いのかが判るはず。
- 学生の時から施術所で働き技術を習う。それを研修と呼んでいる。アルバイトと思っているとお金が目的になってしまう。
- どんな施術所が、どんな人が生き残るのか。またどんな技術が生き残るのか。その答えは、人を呼び込める力、人に好かれること。

(文責/伊賀)

平成 27 年度 第 1 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 17 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 305 教室
- 出席者：12 名
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
 - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
 - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 三村 聡（学科教員・議長）
 - 渡邊 靖弘（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

5. 報告事項

- 鍼灸学科 教育カリキュラムについて
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の 3 つのこだわり）について

6. 検討事項

- 育成人材要件とカリキュラムの連動について
-

5. 報告事項

- 鍼灸学科 教育カリキュラムについて
 - 「日本鍼灸」「中国鍼灸」を基本とし「美容鍼灸」「スポーツ鍼灸」「レディース鍼灸」「高齢者鍼灸」を行うことを、実際のカリキュラム表を使い報告。
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
 - 昨年度の委員会の中で、コミュニケーションについて多く話し合われた。それらことから入学時のオリエンテーションの際に“コンセンサスゲーム”を実施。グループ分かれ行い、早い段階でのクラス作りができるように持って行く。
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
 - 5 院に受入をご協力頂き実施。学生に配布しているポートフォリオを使い説明。

- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）について
→学園の方針に沿って本校が行っている取り組みを紹介

6. 検討事項

<育成人材要件とカリキュラムの連動について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 評価される学生にとって一番ギャップを感じることは、客観的な達成率（学校の評価）と自分の達成率との差である。自分（学生）の自己評価も出させ、ギャップを理解させてほしい。
- 自己認知と他己認知とのギャップを埋めさせてほしい。
- 初めて来る患者様は、施術者に技術があるかどうかは分からなくても、スムーズにコミュニケーションが取れているかいないかは分かる。いかに患者様の懐に入って行けるかが大切。“聞き出す”コミュニケーションも養わせてほしい。
- 「態度」を卒業認定事項に入れることを、本当にできるかが疑問。
(回答) 実際に「態度」項目が未修得で卒業認定がされない、ということにはならないと思う。ただ、そのような項目が卒業認定事項の中にあり、何らかの評価を学生に伝えれば、「態度」の大切さ・職場での必要性を学生に伝えられるのではないかと考えている。
学科としても実技などの科目の中で組み入れて行きたい。
- 各科目の中で“真摯さ”など「態度」の事項を、どう学生に伝え教えるのか疑問。
- “接遇”などを専門の立場（例え：JAL アカデミーなど）から講師を向かえ講義をしてもいいのではないだろうか。
- 「態度」の項目ができないのは高卒新卒とは限らない。返って社会人経験がある方が難しい場合が多い。教育形態の中で“素直さ”を学ばせてほしい。
- 現場としては、まず“人として”の教育が大切

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 現在進めている方向性で進めて行く。■ 平成28年度カリキュラムの中で実施できるものから実施をしていく。■ 次回の会議の際に、進行状況を報告する予定。 |
|--|

(文責/松丸)

平成 27 年度 第 1 回 鍼灸学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 17 日（木） 15：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 305 教室
- 出席者：12 名
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
 - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
 - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 三村 聡（学科教員・議長）
 - 渡邊 靖弘（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

7. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」実施報告（前回の振返り）
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
- 「キャリア支援」の活動報告

8. 検討事項

- 「「キャリア教育と支援」について
-

7. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」
→教職員向勉強会（平成 26 年 6 月 25 日）、3 年生向勉強会（平成 27 年 3 月 2 日）
の実施報告。教材を通じ「個人情報」「関連法令」他内容を紹介。
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
→私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受審、現在準備を推進中。審査
会の最終評価は平成 28 年 3 月末日の予定。
- 「キャリア支援」の活動報告
→ 一人ひとりに適したキャリア支援を目指した「職業理解」、「コミュニケーションスキル・アップ」、「進路指導」のためのセミナーや個別相談のプログラムを
紹介。

8. 検討事項

<キャリア教育と支援について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- スポーツトレーナーとして心理面の支援も重要になる。スポーツ心理学、医療心理学の授業があればと考える。また、国際大会出場のスポーツトレーナーには英語が要求される。

（回答）スポーツ理論の講義にて取り入れていきたい。また外国語の重要性や楽しさを伝える講義を検討していきたい。

- 鍼灸師会からの情報が大変に役立つ。鍼灸師会と教職員の連携が大事。
- 鍼灸に対してのモチベーションに個人差がある。学生の中から鍼灸に対してのモチベーションが高いと年齢が若くても信頼されている。鍼灸を高めていける人が業界をリードしていく。
- Early exposure や見学会の受入先に学校の理念を浸透させ受入れてもらうようにされると良い。Early exposure が終わった後、面談をした方が良い。見学会も面談が大事。

（回答）来年度は実施したい。

- 技を深めるとともに、問診で懐に入って「聴き出す力」が非常に大事。活躍している本校卒業生の一例だが、コミュニケーション力が高く「聴く力」があり、例えば、肩凝りが人生にとってどのようなマイナスになっているのかを聴き出している。
- 本校は（優秀な一部の人だけではなく）全員を掘り起こしているのが偉い。
- 現場としては、まず“人として”の教育が大切
- （進路相談されたなら）人として鍛えてくれる本校を推薦したい。

（文責／伊賀）